

## 倫理

### 第4問 高校生GとHが交わした次の会話を読み、後の問い(問1～9)に答えよ。

なお、会話と問いのGとHは各々全て同じ人物である。(配点 28)

G：すごい豪邸…，こんな①家に生まれた子どもは運がいいね。不平等だな。

H：生まれた家とか国とか，②個人が選べないもので差があるのは，不平等だとしても変えられないよ。与えられた環境の中で頑張ることが大事だよ。この家の子どもだって，③社会で成功できるかどうかは本人次第だと思う。

G：いや，その子どもも，家が裕福なおかげでいい教育を受けて，将来お金を稼げるようになったりするでしょ。運の違いが生む④格差は，社会が埋め合わせるべきだよ。

H：それって，幸運な人が持つお金を不運な人に分け与えるということ？ 運の違いなんて，そもそも社会のあり方と関わる問題だとは思えないけど。

G：そう？ 例えば，運よく絵の上手な人が漫画家としてお金を稼げるのは，漫画を高く評価する⑤文化が社会にあるおかげでしょ。人の⑥才能も，社会のあり方によって，運よくお金になったり運悪くお金にならなかったりするよ。

H：なるほど。けど，才能を成功に結び付けるのは社会だけじゃないよ。漫画家も才能を磨いてプロになるわけでしょ。そうした⑦努力については，個人を評価すべきじゃない？

G：一理あるね。ただ，努力の習慣が身に付くのも運による面はあるよ。地元の学校が「褒めて伸ばす」方針で，何事も頑張って取り組むようになったとか。努力できるようになるかどうかは，⑧社会の仕組みや構造に左右されると思う。

H：それはそうかも。ただ，同じ境遇でも，苦学して立派になる人もいればそうでない人もいるし…。最終的には，努力は個人の問題じゃないかな。

G：するとHは，運の違いが生む格差は全て，個人が努力で乗り越えるべきだと言うの？ 幸運な人と同じだけ努力した不運な人が，格差のせいで幸運な人に追い付けないうだと，不運な人の努力は評価されていないとも言えるよ。

H：確かに…。ただ，努力も全て運次第だからという理由で，努力する人がしない人と同じ扱いを受けるとしたら，それはやっぱり不公平じゃないかなあ。

G：そうだよね…。次の倫理の授業が終わったら，先生にも聞いてみようか。

問 1 下線部㉔に関連して、現代の家族に関する次の文章中の **a** ・ **b** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

従来は生活の基礎集団だった家族だが、血縁のない親子や兄弟姉妹を含む **a** が増加するなど、そのあり方は多様化している。生活環境の快適さを意味する **b** も、家族ではなく行政や企業が提供する場面が増えており、人々の生き方が所得や地域の格差から受ける影響は複雑化している。

- ① a ディンクス                      b アメニティ  
 ② a ディンクス                      b ユニバーサルデザイン  
 ③ a ステップファミリー          b アメニティ  
 ④ a ステップファミリー          b ユニバーサルデザイン

問 2 下線部㉕に関連して、次のア・イは、個人の自立を論じた人物についての説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **26**

ア 「青年ほど、深い孤独のうちに、触れ合いと理解を渴望している人間はない」と述べ、自我の目覚めについて論じた。

イ 青年が親など周囲の大人への依存を離れて精神的に独立することを心理的離乳と呼び、それに伴う不安が個人の成長に必要であると説いた。

- ① ア シュブランガー                  イ サリヴァン  
 ② ア シュブランガー                  イ ホリングワース  
 ③ ア マーガレット・ミード          イ サリヴァン  
 ④ ア マーガレット・ミード          イ ホリングワース

## 倫理

- 問 3 下線部◎に関して、次の資料は、子どもの資質や環境と将来の成功の関係についての研究をまとめたものであり、倫理の授業で配付された。これを読んだ生徒の発言のうち、資料の趣旨に合致する発言として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

27

### 資料

子どもの自制心と将来の成功の関係を調べた心理学者ミシエルの実験に、「マシュマロ実験」と呼ばれるものがある。実験者は、子どもの前にマシュマロを1個置き、「戻ってくるまでマシュマロを食べるのを我慢できたらもう1個あげる」と伝えて一旦部屋を出た後、子どもたちの様子を観察した。子どもたちが成人した後に実施された調査では、より長い時間我慢できた子どもは、より学力が高く経済的にも成功していたという。

しかし、この実験では参加者が、親が高学歴である家庭の子どもに限られており、他の研究者たちが様々な家庭環境の子どもを参加者として再度実験を行ったところ、マシュマロを食べるのを我慢できる時間の長さよりも、家庭の経済状況の方が、将来の成功との関係が深いとされた。ただし、この新しい実験に対する批判的な指摘もあり、将来の成功に対して本人の資質と家庭環境のどちらがより大きく影響するかについては、研究者間での議論が続いている。

- ① マシュマロを食べるのを自制できる時間が長い子どもの方が、家庭環境を問わず将来成功するなんて、やっぱり自制心が大事なのもかもしれないな。
- ② 当初のマシュマロ実験では参加者の家庭環境が限定されていたから、幅広い家庭環境の参加者から得られた結果と異なっていたのかもしれないな。
- ③ 成功している大人は、もし子どもの頃にマシュマロ実験を受けていたら、みんなマシュマロを食べるのを人より長く我慢できていたんだね。
- ④ 結局、マシュマロを食べるのを我慢できる時間の長さは将来の成功には全く関係ないんだから、家庭環境が大事だってことなんだね。

問 4 下線部㉑に関して、次のア・イは、貧富の差に関わる思想や問題についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 28

ア センは、経済の発展を促す国家の機能に着目し、その機能の集合である潜在能力を拡大させていくことで、貧しい途上国が自立できると説いた。

イ 途上国の貧困層が飢餓に苦しむのは、その国の農業が、先進国に輸出するための商品作物の生産を優先していることが一因である。

- |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|
| ① ア 正 | イ 正 | ② ア 正 | イ 誤 |
| ③ ア 誤 | イ 正 | ④ ア 誤 | イ 誤 |

問 5 下線部㉒に関連して、文化や宗教に関する説明として適当なものを次のア～ウから全て選んだとき、その組合せとして正しいものを、後の①～⑦のうちから一つ選べ。 29

ア ホモ・レリギオーススという言葉は、神に祈りをささげるという宗教的な営みに重きを置く人間のあり方を、端的に表現したものである。

イ 日本の高校で茶道を教え、自国と他国の文化の優劣を明確にすることは、文化相対主義の考え方に基づいて文化の共生を促すことになる。

ウ 現代の世界で文化間の摩擦が増してくる中では、西洋とイスラームの衝突は不可避であるとするカルチャー・ショックの思想が説かれる。

- |       |       |         |       |
|-------|-------|---------|-------|
| ① ア   | ② イ   | ③ ウ     | ④ アとイ |
| ⑤ アとウ | ⑥ イとウ | ⑦ アとイとウ |       |

## 倫理

- 問 6 下線部①に関して、次の資料は、ロールズが才能について論じたものであり、倫理の授業で配付された。ロールズの思想と資料の内容の説明として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 30

資料 ロールズ『正義論』より

人が持つ道德上の価値は、どれくらい多くの人がその人と同じような技能を提供しているか、どれくらい多くの人がその人が生み出せるものを欲することになるか、といった事情によって異なるはずがない。……希少な生得的才能を持っているために人より多く稼ぎ出される所得は、鍛錬にかかる費用を賄い、<sup>まかな</sup>学ぼうとする努力を促すためだけでなく、共通利益を最大限高めるように能力を向かわせるためのものでもある。結果として生じる分配上の取り分は、道德上の価値と相関するものではない。どのような天性の強みを生まれつき授かるか、その強みが若年期に発達し育つかどうかには、道德的に重要な根拠があるわけではないから。

- ① 均等な機会の下での競争の結果であり、かつ最も恵まれない境遇を改善する場合にのみ不平等は許容されると説いたロールズが、資料では、人の道德的な価値は才能や技能に対する需要で決まるものではないと論じている。
- ② 西洋思想の基礎にある、あらゆる二項対立的な図式を問い直す必要があると説いたロールズが、資料では、自らの才能を伸ばすことができるかどうかで人の道德的優劣は決まらなると論じている。
- ③ 功利主義の発想に基づいて、社会全体の効用を最大化することが正義の原理に<sup>かな</sup>適うと説いたロールズが、資料では、才能ある人は道德的な共通目標のために自らの私財を提供するべきだと論じている。
- ④ 無知のヴェールの下で正義の原理を決定しようとする際、人々は何よりも基本的な自由を重視することになると説いたロールズが、資料では、個々人の才能に応じて社会の利益を分配することこそが正義に適うと論じている。

問 7 下線部㉔に関して、「まじめに努力していれば、いつかは必ず報われると思う」と「いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う」という意見のどちらに自分の気持ちが近いかを、日本の様々な年齢の人に尋ねた調査がある。次の図1は、その調査の1988年と2013年の結果の一部であり、後の図2は、2013年の結果と「あなたの生活水準が過去10年でどう変わったか」という質問への回答の関連を分析したものである。図1・図2についてGとHが交わした次ページの会話を読み、会話中の **a**・**b** に入る記述の組合せとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 **31**

図1 「いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う」という回答の割合(%)

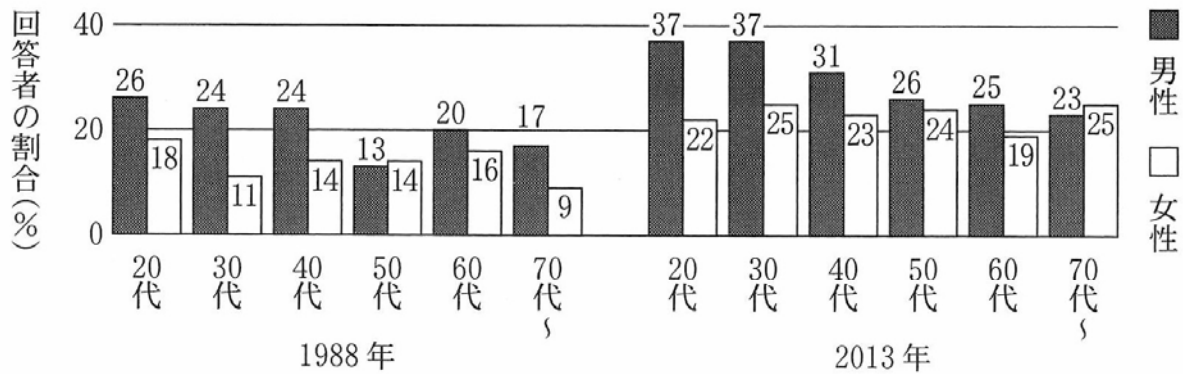
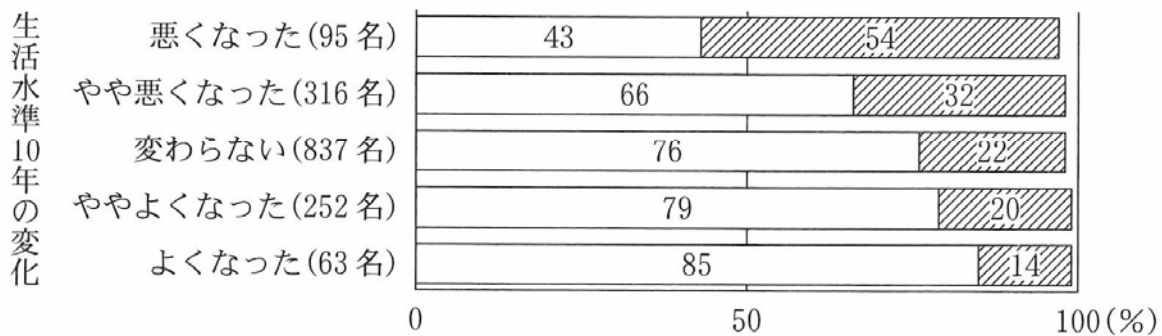


図2 生活水準10年の変化と努力すれば報われると思うかの関連(%)



□ まじめに努力していれば、いつかは必ず報われると思う  
 ▨ いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う

(注) 図1・図2中の数値はそれぞれ、項目ごとに、回答した人の割合(%)を表す。「その他・無回答」を除くなどしているため、それぞれの総和は100とならない。なお、図2の縦軸に記した人数は、「あなたの生活水準が過去10年でどう変わったか」に対する各回答の回答者数を表す。

(資料) 統計数理研究所『日本人の国民性調査』(1988年, 2013年)より作成。

## 倫 理

H：今日の授業で配付された図1・図2って、以前議論した努力と運の話に関係ありそうだね。

G：図1を見ると、**a**。1988年は景気がよくて、2013年は景気があまりよくなかった時期だと思うけど、そうした背景との関係はどのようなかな。

H：うーん。2013年の調査に基づく図2では、**b**。

G：努力が報われると感じるかどうかは、その人が置かれている経済状況とも無関係ではない気がするなあ。

- ① a 大まかな傾向として、男性については、1988年でも2013年でも、若い世代の方が努力は報われないと考える人の割合が高いね  
b 全ての回答を合わせてみると、努力は報われないと考える人の方が報われると考える人より多いね
- ② a 2013年では、特に女性について、年齢が上がるほど努力が報われないと考える人の割合が低くなる傾向があるね  
b 全ての回答を合わせてみると、努力は報われると考える人の方が報われないと考える人より多いね
- ③ a 男女を問わず、1988年よりも2013年の方が、努力は報われないと考える人の割合が増えているね  
b 生活水準が悪化したと感じている人ほど、努力は報われないと考えている傾向が見られるよ
- ④ a 努力は報われないと考える人の割合は、大まかな傾向として男性の方が多く、2013年には女性の割合も各世代で増えているね  
b 生活水準が「悪くなった」と「やや悪くなった」という回答の合算の方が、「よくなった」と「ややよくなった」という回答の合算より少ないね

問 8 下線部①に関して、社会の仕組みや構造を論じた思想家についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① マッキンタイアによると、現代の資本主義社会においては、本来は自由に生成して秩序を創造し直していくはずの無意識的な欲望の流れを、法や道徳が機械の部品のように作用して制御する構造がある。
- ② ボードリヤールによると、脱工業化が進展した現代の社会においては、モノがその有用さにおいて使用されるよりも、他者との差異を示すための記号として消費される構造がある。
- ③ デューイは、狂気を理性から区別して排除していった近代社会の成立をたどり直す中で、学校や職場での教育や規律が人々の自発的な服従を促す、不可視な権力の構造を明らかにした。
- ④ ソシュールは、無意識的に作られた構造が人間の思考を規定しているという言語学の知見に学び、南米諸部族の親族関係や神話の分析を通じて、未開社会を基礎付ける複雑な思考の構造を明らかにした。



## 倫理

問 9 次の会話は、倫理の授業後にGとHが先生と交わしたものである。70ページの会話も踏まえて、会話中の **a** ~ **d** に入る記述の組合せとして最も適当なものを、次ページの①~④のうちから一つ選べ。 **33**

G : 先生、人生は運にも左右されると思いますが、運の違いが生む格差は社会が埋め合わせるべきでしょうか。Hと少し議論になったのですが…。

先生 : 興味深いですね。二人はそれぞれどういう意見なのですか。

G : 私は、運の違いが生む格差を **a** のが望ましいと思います。

H : 私は、そうした格差については、 **b** のが望ましいと思いますね。

先生 : なるほど。では、なぜ、そう考えるのでしょうか。

G : そうですね…、社会は公平であるべきだからだと思います。お互いを尊重する社会であれば、自分はここに居ていいと感ずることができ、物事を選択する際にも、適度な自信と責任感を持てるはずです。

H : え？ それでなぜ、さっき先生に言ったような意見になるの？

G : だって、運の違いが生む格差を社会が **c** , お互いを尊重できなくなるかもしれないでしょ。

H : そういう考えだったんだ…。私は、運の違いが生む格差を社会が **d** , 人々がお互いを尊重できないと信じていたんだよね。

先生 : 二人とも、人々がお互いを認め合って敬意を払い合う社会を望んでいたということでしょうか。

H : なるほど。Gと意見が一致している面もあるように感じていましたが、敬意という言葉はあまり考えたことがなかったですね。

G : 私も、敬意という言葉聞いて、理解が深まった気がします。二人でもう一度話し合った方がいいかもしれませんね。

先生 : 是非そうしてください。運の違いも努力の差も軽視しない社会の仕組みを考え付くことができるといいですね。

- ① a 社会が無理に埋め合わせようとせず、個人の努力をより重視する  
b 努力に限界があることを認め、社会が埋め合わせようとする  
c 埋め合わせると、かえってお金にばかり人の関心が向いてしまい、世の中で格差が意識されてしまうようになって  
d 解決しない場合、不運な人は他の人より多くの努力を強いられるのに、その努力が評価されるとは限らないから
- ② a 社会が埋め合わせ、努力の差を基準にして人を評価することがない  
b 不平等だとしても、社会が全てを埋め合わせることは慎重である  
c 解決すべき問題だと捉えることで、幸運な人が自身の財産を奪われると言って不運な人を敵視したりして  
d 全て埋め合わせようとする、幸運だとされた人は努力をしていない人だと決めつけられかねなくなって
- ③ a 個人では変えられないものと捉え、社会が責任を持って埋め合わせる  
b 社会だけに責任がある問題ではないから、個人が努力で乗り越える  
c 埋め合わせない場合には、自分自身で何かを成し遂げたわけでもないお金持ちの中から、お金を持っていない人を見下す人も出てきて  
d 解決すべき問題だと捉えない場合、幸運な人が自身の恵まれた環境を当たり前だと思い、努力する人を評価しなくなって
- ④ a 社会のあり方で変わるものと捉え、社会ができる限り埋め合わせる  
b 社会も無視できないけれど、努力が報われることの方を重視する  
c 埋め合わせなかったら、自分自身が選んだわけではない家庭環境などで評価が決められてしまう社会になりかねなくて  
d 埋め合わせる中で、努力まで運のおかげだということになると、努力する人は、自身が適切に評価されていないと感じてしまつて